

呉工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	中国語
科目基礎情報						
科目番号	0048		科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	機械工学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	李志華・文南 著『友子の北京ライフ』 白帝社					
担当教員	范 叔如,劉 鳴,羅 穎,張 愛花					
到達目標						
1. 4年生で`学習した日常会話を復習しながら`ら、さらに応用表現を習得することで`、会話の幅を広げ`ます。 2. 中国のテレビ`番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ`、中国の社会や文化についての理解を深めます。 3. 練習問題を解きながら`ら、中国語の読解力・聴力を高めます。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	4年生で`学習した日常会話を復習しながら`ら、さらに応用表現を習得することで`、会話の幅を広げ`ることが適切にできる		4年生で`学習した日常会話を復習しながら`ら、さらに応用表現を習得することで`、会話の幅を広げ`ることができる		4年生で`学習した日常会話を復習しながら`ら、さらに応用表現を習得することで`、会話の幅を広げ`ることができない	
評価項目2	中国のテレビ`番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ`、中国の社会や文化についての理解を深めることができる		中国のテレビ`番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ`、中国の社会や文化についての理解ができる		中国のテレビ`番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ`、中国の社会や文化についての理解できない	
評価項目3	練習問題を解きながら`ら、中国語の読解力・聴力を高めることが適切にできる		練習問題を解きながら`ら、中国語の読解力・聴力を高めることができる		練習問題を解きながら`ら、中国語の読解力・聴力を高めることができない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)						
教育方法等						
概要	この授業で`は、基礎となる中国語の文法・会話表現を復習しながら`ら、より高度な表現を習得することで`、ある程度の実力をつけることを目標にします。					
授業の進め方・方法	発音方法、文型模倣練習法、模倣記憶返復法などを必要に合わせて応用する。					
注意点	試験前にまとめて勉強するのではなく、普段の授業を大切に、しっかり知識の基盤を築くことを期待する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	第9課		月、日、曜日の言い方、名詞述語文	
		2週	第9課		経験を表す`過`	
		3週	第9課		動作の状態の程度を表す`得`と`是～的`	
		4週	第9課		「聞く、書く、話す」と本文	
		5週	第10課		時を表す語②と`快～了`	
		6週	復習			
		7週	中間試験			
		8週	第10課		動詞の重ね型と持続を表す	
	2ndQ	9週	第10課		「聞く、書く、話す」と本文	
		10週	第11課		助動詞`会`、`能`、`可以`	
		11週	第11課		2つ目的語をもつ動詞	
		12週	第11課		結果補語	
		13週	第11課		「聞く、書く、話す」と本文	
		14週	復習			
		15週	期末試験			
		16週	答案返却・解答説明			
後期	3rdQ	1週	第12課		可能補語`得`	
		2週	第12課		方向補語／助動詞`得`	
		3週	第12課		動詞（句）を目的語にとる動詞	
		4週	第12課		「聞く、書く、話す」と本文	
		5週	第13課		量詞／比較の表現`比`	
		6週	復習			
		7週	中間試験			
		8週	第13課		離合動詞／副詞`又～又～`	
	4thQ	9週	第13課		「聞く、書く、話す」と本文	
		10週	第14課		`了`1+`了`2構文	
		11週	第14課		使役文	
		12週	第14課		受身文型	
		13週	第14課		「聞く、書く、話す」と本文 時刻などの表現	
		14週	復習			
		15週	学年末試験			
		16週	答案返却・解答説明			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	2		
評価割合							
	試験	課題	授業参加度	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	10	0	0	0	100
基礎的能力	80	10	10	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0